

■シリーズ■ 中学校武道

授業の充実に向けて 88

複数種目授業の実践報告と課題 ②（柔道・剣道・相撲）

長崎県五島市立福江中学校 教諭

小倉 哲志

五島市は、長崎県の西部、五島列島の南西部に位置する市である。五島市は11の有人島と52の無人島からなり、その中でも大きな福江島に福江中学校がある。

海に囲まれた自然豊かなこの島で、全校生徒数474名が「強く、正しく、役立つ人間」の校訓のもと、のびのびと育っている。本校では生徒に希望をとり、全学年、柔道、剣道、相撲の3種目から武道授業を選択させている。今回はその複数種目希望選択制授業の実践報告と課題について紹介する。

1 複数種目実施に至った経緯

本校では、3人体制で保健体育科の授業を行っている。各学年、4〜5クラスで編成されており、2〜3クラス合同での授業を行っている。3クラス合同時には、120名での授業となる。その中で、各学年希望選択制にて、柔道・剣道・相撲の授業を行っている。

希望選択制に至った一つの要因は、活動場所や生徒一人あたりの活動時間を確保するためである。他の単元でも複数種目から選択させるが、特にボディーコンタクトの多い武道では好き嫌いが分かれ、消極的な活動になる生徒が出てくる。各学年で選択できれば、その緩和となるであろうと予想されたからである。そして何より、より多くのスポーツに触れてほしいという教員の願いでもあった。

もう一つ大きな要因に挙げられるのは、「地域性」である。本校のある福江島は、武道文化が根強く息づく島である。人口減少の進む離れ島ではあるが、柔道・剣道の社会体育クラブは、各地区に必ず一つはあり、多くの指導者も存在する。この2種目は、長崎県大会でも毎年のように上位入賞を果たしている。さらに、相撲についても、地域の祭りで行われる「奉納相撲」と呼ばれるものが各地区

に今なお残っている。現在は島内で相撲部がある学校はないが、過去には、全国中学校総合体育大会に何度も出場したり、現在も五島出身の力士が大相撲で活躍したりしている。つまり、五島という地域の中では、柔道・剣道・相撲の3種目開設は自然の流れであったとも言える。

中学3年生にアンケートを実施したところ、「武道の授業が好きですか？」という質問では、約半

2 指導の実際

昨年度は、各学年13時間の計画で授業を実施した。

授業の導入部分では、各種目の特性や歴史、礼法を丁寧に説明している。それに加えて、事故の危険性や安全面への配慮について丁寧に説明する。柔道でいえば、「全力でも70%」ということを最初に約束事として掲げる。そして、残りの30%は、場所への配慮、相手への配慮、そして自分への配慮であることを必ず伝える。

授業の進め方としては、ペア活動を多く取り入れている。武道は対人競技であるため、ペアでの教え合いが重要になってくる。

【各学年学習内容】 ○柔道

はじめに、受け身を重点的に練習する。ペアで練習し、慣れくると相手に補助をしてもらいながら徐々にスピードをつける。1年次では、道着の着方、受け身、寝技を中心に練習。投げ技の練習も行うが、終盤には、寝技のみでの大会を実施している。2年次は基本の投げ技を中心に、崩して投げることを行い、3年次には、連絡技、応じ技を多く取り入れ、自分で組み合わせを考えて発表会を行う。また各学年とも柔道の動きでの補強運動や試合形式の約束練習を取り入れている。

○剣道

1年次には、防具のつけ方に多くの時間を費やす。そのため、基本打突の練習段階で部分的に防具のつけ方を指導していく。「防具

資料1 生徒アンケート（3年生男女）

武道の授業を行うことは好きですか？

はい	どちらともいえない	いいえ
50.3%	34.2%	15.5%

武道の授業を初めて受けたときに怖さや不安がありましたか？

はい	どちらともいえない	いいえ
32%	28%	40%

武道の授業は楽しいですか？

はい	どちらともいえない	いいえ
73%	22%	5%

3年間で履修した種目について教えてください。

3年間とも同じ種目	3年間で2種目	3年間とも違う種目
42%	51%	7%



剣道 防具のつけ方②



剣道 防具のつけ方①



相撲 審判も生徒が行う



相撲 土俵入りからしっかり学ぶ

資料2 平成26年度「武道」授業 種目選択 人数

		柔道			剣道			相撲		
		男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計
第1学年	1・2・3組	14	12	26	12	13	25	14	11	25
	4・5組	14	14	28	9	12	21	15	8	23
第2学年	1・2組	16	12	28	8	12	20	13	14	27
	4・5組	16	13	29	11	14	25	10	10	20
第3学年	1・2組	12	14	26	13	10	23	12	15	27
	3・4組	14	16	30	10	15	25	15	7	22



相撲 基本動作でウォーミングアップ



相撲 まわしの指導

なしの竹刀に面を打ち込む練習↓
胴をつけて胴打ち練習↓小手をつ
けて小手打ち↓防具をすべてつけ
て自由練習」という流れである。
防具の着脱はペアで行い、その
後、自分だけでつけられるように
練習する。1年次はしかけ技の習
得が主となり、2、3年次で引き
技、応じ技の応用技が中心となる。

○相撲

1、2年次に受け身、基本動作
の習得や審判法を身に付ける。ま
た、3年次には立ち合いから相手
の動きに技を合わせる練習をす
る。各学年共通で、気鎮め、伸脚、
蹲踞、塵浄水、四股、仕切り、攻め、
防ぎ、それぞれの基本動作や基本
となる技を組み合わせたウォーミ
ングアップを掛声とともに行う。

3 見えてきた課題と 対策

○場所と道具

本校には武道場がない。そのた

め、3種目とも体育館で行ってい
る。畳やマットなどは倉庫の1カ
所に保管するしかなく、準備に時
間がかかる。そのため現在、武道
の時期には、2時間続きの時間割
を組んだり、各学年の授業を連続
で入れてもらったりと、準備や片
付けの時間を減らし、少しでも学
習時間を確保できるように工夫し
ている。

道具に関しても、一つの種目に
40名程度の備品を準備することは
大変難しい。特に、生徒数分のま
わしを準備することは困難であっ
た。そこで、「奉納相撲」を運営
する商工会議所の協力を得て、授
業の時期にまわしを借りている。
また、道着のおさがりも地域の方
から譲り受けて準備をすることが
できた。地域の特性に合わせて、
地域の方に助けられながら授業が
可能になったと感じられる事例で
ある。

○指導力の向上

平成26年度は、教員のみで指導
を行ったが、3種目とも専門であ
る教員がそろうことはなく、指導

が難しいこともあった。やはり外
部指導者の力が必要であった。こ
れまで長崎県教育委員会が推し進
めている「中学校体育学習サポー
ター派遣事業」を利用して柔道・
剣道の授業で外部指導員に来ても
らい指導を支援いただいた。相撲
については、ゲストティーチャー
として地元出身力士を招き、特別
講習会を行うことがあった。実際
に授業を進めていく中で、疑問や
安全な指導の仕方を学ぶことがで
きる絶好の機会となった。また、
基本の動きを簡単なサーキットや
補強運動に取り入れることで、専
門外でも簡単に導入に使うことが
できた。この点も有効であった。

学習指導要領で武道の取扱いに
ついて「地域の実態に合わせて
……」とあるが、専門性が高い武
道においては、地域に指導者が多
くいる武道を選択して、外部指導
者と連携していくことが不可欠で
あると感じる。離れ島である五島
では、特にそれを感じられる。

○系統的な指導

学習指導要領の武道内容の取扱

いでは、「武道は、段階的な指導
を必要とするため、特定の種目を
3年間履修できるようにすること
が望ましいが、生徒の状況によっ
ては各学年で異なった種目を取
り上げることができるようにな
る。」と記されている。本校では、
前述のとおり、3カ年とも選択制
で生徒の希望をとることにしてい
る。

そのため、一番の課題となるの
は、系統的に学習を進められない
ことである。複数種目を選択する
生徒は各種目をスタートから学ぶ
のに対して、同じ種目を選択する
生徒は、さらに高いレベルでの学
習を求めていることが多い。安全
上の配慮のため初期段階の指導は
おろそかにできず、継続して学ん
でいる生徒にとっては、結果的に
復習の時間が多くなる。その部分
をどのように有益な活動時間にす
るかが重要である。

その対策として本校では、「教
え合い活動の充実」を推し進めて
いる。初めて選択する生徒と経験
した生徒をペアやグループにし
て、経験者を「リトルティーチャ



柔道 教え合い活動（受け身）



柔道 教え合い活動（組み手）



相撲 女子もまわしを締めて実施

「」として未経験者にアドバイスをを行う。それによって、未経験者の基礎指導ができ、経験者は復習し、習った技を正確に覚えて連絡技や試合形式の練習に活かすことができる。

実際に、アンケートの「武道の授業でどんな時に楽しさを感じるか」という質問に、「みんなで技の練習をしたとき」「教えた技を友達ができるようになったとき」という答えが数多く見られた。系統立てて授業を進める工夫の一つである。

「非日常的動作」であるということだ。武道も普段身につけない道着やまわし、防具をつけ、独特の動きや技がある。生徒たちにとって、「非日常性」は、好奇心をかき立てる。

そして、武道の礼節を重んじる動きや精神は、日本人の根底をなす大切な心である。本来持っている心を引き出す武道は、生徒の心を洗う時間となるのではないだろうか。武道が楽しいと答えた生徒の理由の最たるものは、「できない技ができるようになること」や「自分の得意技ができたとき」で

今回のアンケートで、武道の授業が楽しいと感じている生徒が73%であった。武道という地域に根付いた文化は、生徒にとって実際に自分が行うとは思ってもない「近いようで遠い存在」である。さらに言えば、回転や倒立がある器械運動がよく挙げられるが、

あった。この考えは、自分に自信を持たせ、自己肯定感に繋がっていると言えよう。まさに、武道の授業が「生きる力」を育むことが可能であることを示しているように感じた。

武道の複数種目実践から見えてきた課題とその対策は、そのまま教員の指導力向上や生徒の生きる力として還元されるものであった。今後も本校では、複数種目選択制を継続していく予定である。

アンケートの3年間で履修した種目については、3年間で複数種目を選択する生徒が60%近くを占めた。その理由のほとんどは、あまり武道をする機会がないので、たくさん種目を経験したいというものであった。それは我々の願いでもあり、生徒の願いでもある。

複数種目授業の実践には教員数や生徒数によって制限される部分があるが、可能であれば、ぜひ取り組んでいただきたい。また、武道授業は、「地域性」を紐解き、全国の各所でその地に根付いた文化を伝えていってほしい。

4 まとめ

NHK G-Media

定価880円(税込)

「展望号」を番付発表の3日後、
「決算号」を千秋楽の4日後に発売。

大相撲ジャーナル

2016年1月号

「平成27年九州場所決算号」

▼ 優勝力士カラーグラビア

▼ 土俵を沸かせた三賞受賞力士

▼ 15日間完全密着プレイバック

熱戦の15日間を迫力あふれるカラー映像で振り返ります。

▼ 「手さばき」で振り返る九州場所

幕内力士の全取組を、相撲取材歴60年の三宅 充氏が精緻な「手さばき」で再現します。

▼ 丸親方（元横綱武蔵丸）の九州場所総決算

▼ 丸親方（元横綱武蔵丸）のズバリ一言

▼ 「座談会」平成27年九州場所を語る

〔出席者〕 藤島親方（元大関武双山）
阿武松親方（元関脇益荒雄）

〔司会〕 緒方喜治(NHK 大相撲ジャーナル編集長)

▼ 九州場所各段優勝力士

▼ ズームアップ 注目力士の九州場所を振り返る

▼ 九州場所新序出世披露

祖父は横綱琴櫻、父は関脇琴ノ若。期待の琴鎌谷に注目。

▼ 「どす恋花子」の勝ち越しクエスション

▼ 角界ファミリー 峰崎親方一家

▼ 大相撲と私 池坊保子評議員議長

▼ 新・わが相撲部屋全員紹介 玉ノ井部屋

▼ 私の錦絵コレクション

▼ 大相撲データルーム

▼ 幕下以下の全力士・全勝負



表紙は「平成27年九州場所展望号」です

▼ 幕内十両力士星取表

▼ 幕下以下成績表

▼ 一門雑記帳

▼ 角界ニュース

株式会社アブリストスタイル

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-37-4 友田三和ビル 4F
TEL:03-5283-6151 FAX:03-5283-6153